

大学と釧路キャンパス・附属小中学校が一体となった共同研究

内山 隆

1. はじめに

北海道教育大学附属釧路小中学校では、「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて一国立教員養成大学・学部・大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書―」（2017年8月29日）を受けて、大学と釧路キャンパス、附属学校が一体となった改革を進めている。本稿では、共同研究の取組について報告する。

2. 北海道教育大学のビジョン ―北海道の教育課題に対応した附属学校の在り方検討―

北海道は、国土の約5分の1の広大な面積を有し、地域によって気候風土や教育課題も異なる。従って、北海道教育大学では、附属学校の在り方について、それぞれの地域の教育課題を踏まえて検討していく必要がある。

北海道は全市町村の85%が過疎地域に指定されており、少子化による小規模校化から学校統合が進むことが予想される。小中併置校も多く、実質的に小中一貫教育を実践することが求められる。2018年4月現在、道内には5校の義務教育学校が設置されているが、特に道東においては、義務教育学校のモデルが近隣の教育委員会からも要請されている。

道東の教育課題と求められる解決の方向性は、過疎地域を担うリーダー育成の必要性、異年齢集団・異世代集団におけるリーダーシップの養成、コミュニティスクールとコミュニティリーダー育成の必要性、新しい学校統合モデルの開発の必要性である。

2018年に、こうした大学のビジョンを釧路キャンパスと附属小中学校、教育委員会が共有し、附属学校の在り方を検討するところから共同研究に着手した（図1参照）。

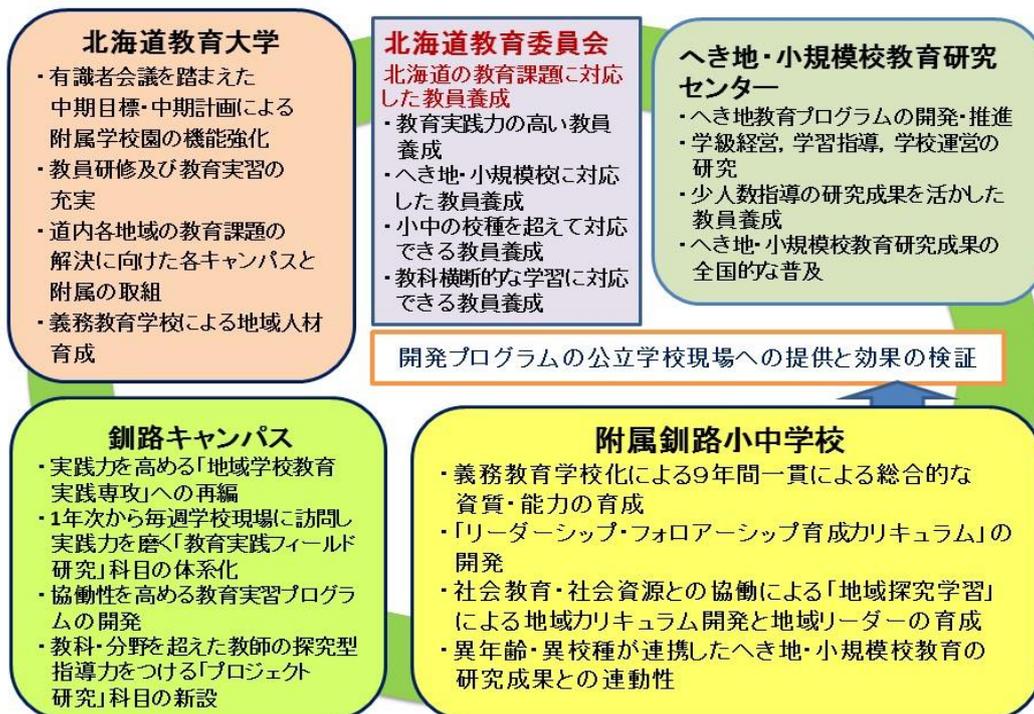


図1: 大学・キャンパスと附属小中学校が一体となった共同研究

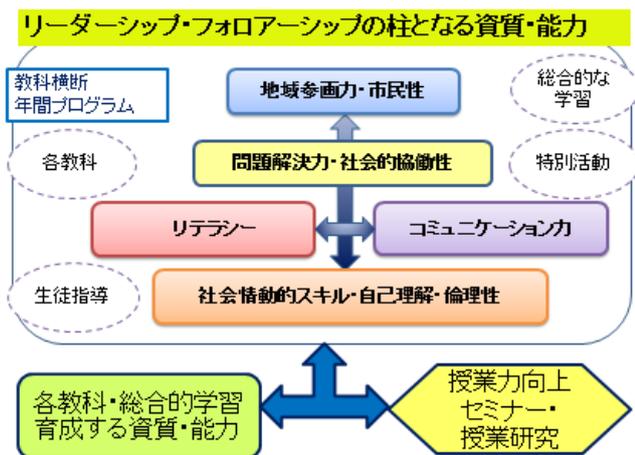


図3: 育成する資質・能力

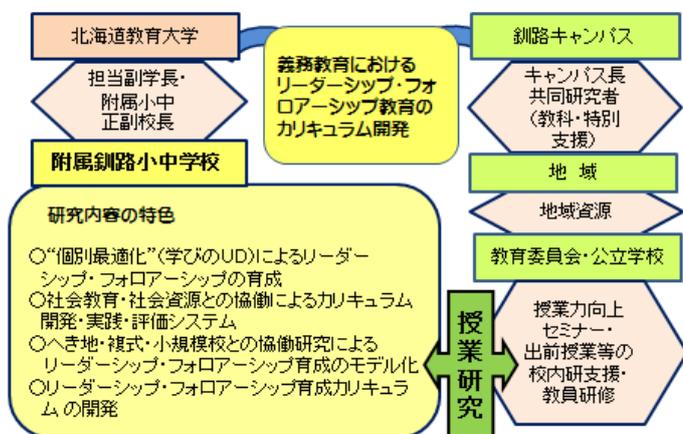


図4: 大学及び教委・公立学校と連携した研究組織・内容・方法

③は、複式・小規模校の学び方、異学年協働学習と附属学校のリーダーシップ・フォロアーシップ育成の研究成果を共有してモデル化を図り、公立学校に成果を提供、活用を図ることである。

④は、リーダーシップ・フォロアーシップ育成カリキュラムの開発である。

リーダーシップ・フォロアーシップの柱となる資質・能力を先行研究・実践等から設定し、教科横断的な年間プログラムを作成し、授業プランとして公立学校に提供する（図3参照）。

また、カリキュラムの提供と実践・評価・改善を、年に1度の公開研究会ではなく、年間を通した午後からの授業力向上セミナーにおける授業研究の積み重ねによって、教員の資質・能力に関わるエビデンスとともに明らかにしていく（図4参照）。今年度は、約80（授業数）の授業力向上セミナーを実施し、参加者数が前年度に比べて3倍以上に増加する見通しである（約1,800名）。

5. 終わりに

以上のように、北海道教育大学附属釧路小中学校では、大学・釧路キャンパスと一体となり、共同で地域の教育課題を探究する義務教育学校として、求められる役割を果たしていく所存である。

（北海道教育大学附属釧路小学校長）